

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和4年度報告)

- 1 被害防止計画の特徴等
- 被害防止計画の対象鳥獣としては、イノシシ、サル、シカ、アライグマであり、侵入防止柵の設置を実施する。
また、捕獲については、平成29年度に設置した被害防止対策実施隊による有害鳥獣捕獲を積極的に行っていくことになっている。
- 2 事業効果の発現状況
- 協議会を中心に関係機関と地元農業者等が連携して被害対策への取り組みが進められている。
- 3 被害防止計画の目標達成状況
- 目標を達成できておらず、被害金額、被害面積ともに拡大している。
- 4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (構成市町名)	対象地 域	実施年 度	対象鳥 獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開 始	利用率・稼 働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見
										被害金額(万円)			被害面積(a)				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
三木町	三木町 全域	2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	356頭	-	-	-	香川県狩猟クラブや三木町鳥獣害対策実施隊を中心に本町の箱わなやくくりわなを貸与し、捕獲活動を実施した。また、令和2年度よりサルの捕獲の奨励金を倍増した。さらに捕獲活動の中で使用する撒き餌について住民に対して提供を呼びかけたところみかんやサツマイモ等の提供があり、捕獲活動に活用することができた。これらの取組の結果、3箇年にわたり特にイノシシ・サルの捕獲頭数について成果をあげることができた。今後本町対策協議会、狩猟クラブ等とも連携し計画的に事業を実施する。	485	784	-286.9%	495	675	-106.9%	農作物被害については、特に中山間地においてイノシシ、サル、アライグマ等による農作物被害が多発しており、被害の範囲は平野部にも及ぶようになっている。本町独自の防止対策事業において、各農家ごとにワイヤーメッシュ柵や電気柵等の侵入防止柵を設置することで被害防止を図った。しかしながら、当初の目標から被害面積、被害金額ともに目標が達成出来なかった。今後についても捕獲活動とともに総合的な対策として、防止柵に対する補助制度の拡充や農作物被害対策について、関係機関と連携を図りながら普及啓発活動を行っていく必要がある。	イノシシやサルの捕獲が強化されているが、被害防止効果が十分ではないようなので、耕作放棄地の解消など集落環境の改善や侵入防止柵の適切な設置により総合的な被害防止対策に努めてほしい。また、その取組は集落ぐるみで行うことで効果的なものになると思われるので、啓発に努めてほしい。 アライグマについては、単価の高い作物の被害が多いので、捕獲だけでなく、餌付け防止や侵入防止柵の設置による効果的な対策を推進してほしい。 (香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害)矢木聖敏)
			サル	緊急捕獲活動支援事業	27頭	-	-	-									
			シカ	緊急捕獲活動支援事業	10頭	-	-	-									
		3	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	522頭	-	-	-									
			サル	緊急捕獲活動支援事業	38頭	-	-	-									
			シカ	緊急捕獲活動支援事業	9頭	-	-	-									
		4	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	320頭	-	-	-									
			サル	緊急捕獲活動支援事業	38頭	-	-	-									
			シカ	緊急捕獲活動支援事業	4頭	-	-	-									

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2:業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること
3:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。